

上田市教育委員会 7月定例会会議録

1 日 時

平成28年7月21日（木） 午後3時5分から午後4時32分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	小林 一雄
教育長職務代理者	城下 敦子
委 員	寺島 滋
委 員	北沢 秀雄
委 員	平田 利江子

○ 説 明 員

中村教育次長、浪方教育参事、小野沢教育総務課長、小井戸学校教育課長、小林生涯学習課長、宮崎人権同和教育政策幹、浅野文化振興課長、滝沢スポーツ推進課長、丸子地域教育事務所係長、清水真田地域教育事務所長、清住武石地域教育事務所長、黒岩第二学校給食センター所長、竜野中央公民館長、滝沢城南公民館長、飯島上田情報ライブラリー館長、山口上野が丘公民館次長

1 あいさつ

2 〈協議事項〉

(1) 平成27年度教育行政に係る事務の点検及び評価について（教育総務課）

○資料1により小野沢教育総務課長説明（要旨）

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、教育委員会として1年間の事務の管理及び執行の状況について点検評価を毎年行うことになった。法改正の趣旨に鑑みて平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について自己点検、自己評価を行い上田市教育行政評価懇話会において有識者のみなさんからご提言をいただいているものである。この評価については議会へ報告するとともに今後の教育に関する事業の改善に役立てていく。評価の方法についてはAからDまでの4段階による評価を行う。

○資料1-①により小井戸学校教育課長説明（要旨）

事業名、幼保小中の連携によるスムーズな接続について、総合評価はBである。保育士が小学校へ訪問する幼保小の連携、中学校の数学の先生が小学校の算数の授業に行き中学校の先生が小学校の授業を教える交流事業、専科教員配置校以外の中学校においても、可能な範囲で同様の取組を行う。達成状況としては、5人の数学の先生を派遣した。算数が好きかという年2回のアンケートでも数値的には上がっている。また、中学の先生の授業を受けたいかというアンケートも80.2%で事業の成果が表れている。評価懇話会委員からの意見として小一プロブレム、中一ギャップという学校が変わるといふことへの不安に対する不登校もあるので連携による接続の対応について評価する。またアンケートでの数値が上昇しているということでも評価をいただき今後も期待されるということである。さらに小学校で中学校の先生がどんなふうに教えるか、授業を先生も参考にするというようなことも大事なことである。ただ、中学の先生が小学校に行くことと中学の先生の授業があいてしまうので、その代わりに代替の先生を入れているという事業でもあるが、先生方の負担感については配慮してほしいということである。この事業に対する考え方については中一ギャップの解消ということと、小中の先生が授業改善に役立てるといふこともあり学力向上につなげていきたいということである。また、子どもたちにとっては中学に対する不安感を少しでも解消できる事業であるが、先生の代替教員確保についてもなかなか難しいということがあり、こういった課題があるということは今後も考えていかなければならない。今後も教育委員会と学校、連携教員の方々とご意見をいただきながら今後もこの事業を続けていきたい。また、高校・大学と小中学校との連携事業を構築していきたい。

○資料1-②により小井戸学校教育課長説明（要旨）

事業名、不登校や特別な支援が必要な児童・生徒への支援について、総合評価はBである。事業の内容として、心の教室相談員の配置、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣、特別支援教育支援員の配置、ボランティアが学校に入っている授業、あるいは生活面での支援、特別支援学級にタブレットパソコンを導入して授業の補助であるとか考えている。不登校の在籍比率は前年同時期に比べ増加している。原因は分からないがおもに家庭環境も要因のひとつではないかと考える。懇話会委員からの意見として心の教室相談員や特別支援教育支援員についてはなかなか県内にはない事業として長野市と上田市のみであり、きめ細かい事業としては評価をいただいた。それから専門的な分野の仕事でもあるので相談

員、支援員については常に整合性をもった研修をしてほしいということ。それから貧困率というものは学習にもいろいろ影響があるということが最近いわれている。こういった分野については福祉を予定した取組が必要である。家庭環境についてもスクールソーシャルワーカーとも連携しいろんな話を聞いてほしいという状況である。意見に対する考え方であるが、おもに専門の職員については年間計画で合同の研修会であるとか初任の先生の研修会などを毎年行っている。今後も専門性を持った活動を続けていきたい。また、不登校の傾向としてどうしても福祉、医療、というような専門的な分野の専門家とも連携が必要であることから、これからも続けて連携をし、不登校支援に対応していく。

○資料1-③により小井戸学校教育課長説明（要旨）

事業名、ICTを活用した効果的な授業の推進について、総合評価はAである。27年度、小学校2校、中学校2校の特別支援学級にタブレットパソコンを試験導入した。通常、教科書などが分からない、文書的に読みづらいなどといった障害があっても、タブレットパソコンによって読むことで文字の色が変わっていく、音声で声を出して読んでくれるなどその子に合わせた速さや字の大きさが分かるような機能のアプリを使って授業を進めてきた。結果、自分自身では目で追えないところを機械がフォローしてくれるので早く理解できる。自分から授業についていかれることからテストの成績も上がったということで全体としては効果があった。委員からの意見としては視覚的な情報を取り入れるということで事業として評価したいということである。発達障害を抱える子どもと一緒にほかの子供たちと受けられる授業ということについて研究を進めていただきたいというご意見もあった。また、教える先生のパソコン等スキルアップをはかるための先生方の研修等の体制を整えてほしいということである。今後については実証実験は昨年で終わり、今年度から3カ年計画で市内の小中学校の特別支援学級にタブレット型パソコンを配置するということが今年度予算化している。順次、これから入れていく予定である。予算的な制約等がある中で学校の規模、特別支援の人数、小中のバランスを考え3カ年のなかで配置をしていきたいと考えている。また、先生方の研修などについてもICT支援員というものがいるので、そういった方々を派遣しながら今後も進めていきたい。

○資料1-④により小井戸学校教育課長説明（要旨）

事業名、地域に信頼され、地域に開かれた学校づくりについて、総合評価はBである。現在、信州型コミュニティスクールといって長野県版のコミュニティスクールを長野県教育委員会が推奨している。平成30年までに100%ということを進めている。信州型については昨年度までに15校が要件を満たしている。そのほかに国の指定しているコミュニティ・スクールが市内で2校ある。それからもう1校国が行ってきた学校支援地域本部事業が塩田中学校であり、この3校合わせると18校になる。市内36校のうち18校ということ約半数の学校においてコミュニティスクールというかたちで進めてきた。コミュニティ・スクールというのは地域の方々がボランティアで学校の支援に入るという事業であるが、一番大事なことは、地域でできることは何か、そしてそれと学校が何をしようとしているかをつなげてくれるコーディネーターの役割をする人材が必要ということである。コーディネーターの育成あるいは発掘といったことが一番大事になってくる。教頭先生ではいずれ異動されてしまうため、長く続けていただくにはやはり地域の方にコーディネーターに入っていただくのが一番である。また、コーディネーターの養成講座の開催であるとか地域の情報、いろんな人材を知っている公民館がとても重要な位置づけにある。生涯学習課、公民館とも連携しながら今年度中にマニュアル等をつくり、地域に周知しながらボランティアを集いながら、

平成30年まであと2年あるので100%を目指していきたい。また学校にボランティアの方が集うスペースがないというご意見をいただくなかで、空き教室や空いているスペースがあればいいが、ないところもあるので何らかの工夫をし、学校とも協議しながら地域の方が集える、情報交換ができるようなスペースの確保をしていきたいと考えている。引き続き公民館の協力を得ながら進めていく大きな事業ということで考えている。

○資料1-⑤について小井戸学校教育課長説明（要旨）

事業名、放課後児童対策の充実について、総合評価はBである。この事業は、支援員の複数配置について昨年度から国の補助制度ができたことからこれを活用し、子どもが少ない時間帯は1人であったものを常時必ず2名以上の支援員を配置するという事業である。不規則な時間帯の勤務であるのでなかなか人材が集まらないといった状況がある。予算を確保しながらさらに充実をしていきたい。また、トットの家の子童保育所の建て替えが本年度始まっている。昨年度の目標のなかでは実施設計をして建設に向けての設計も終わり、特に問題はなかった事業である。

○質疑

北沢委員

1-②でここに記載されているとおりで十分理解でき、委員からの意見、意見に対する考え方のところを見てこのとおりだと思う。以前から気になっているのは、スクールカウンセラーの活用の成果がなかなか見えないということである。上田市はこのような事業については非常に手厚い支援をしていただいていると思う。スクールソーシャルワーカーを活用されている学校のご数年の傾向であるが、心の教室相談員とか特別支援教育の支援員の2つは非常にありがたく、スクールソーシャルワーカーの派遣についても非常にありがたい。スクールカウンセラーについては一番導入が古いですが、守秘義務ということがあり、校内でうまく連携がとれていない。シートの中には言葉としてもスクールカウンセラーが出てきていない。事業費はスクールソーシャルワーカーよりもスクールカウンセラーのほうが多いが、スクールカウンセラーをもっと活用できるかたちで方向を考えていただければありがたい。

小井戸学校教育課長

定住自立圏事業で行っている事業でもあり上田、東御、青木、長和が予算を出しあい実施している。予算的な部分もあり1人お願いしているが、派遣希望が重なることもあるため県からもスクールカウンセラーを入れてもらっている。表記のなかにスクールカウンセラーというような部分について活動があれば加えていきたい。

中村次長

スクールカウンセラー派遣事業については、長野県で雇用して東信教育事務所に1人いたが、東信全体で1人ということでなかなか各学校に配置ができないということから、5～6年前に定住自立圏の事業として上田市と周辺市町村でカウンセラーをもう1名雇用し、あわせてソーシャルワーカーも雇用したいということで始まった。当時に比べると1人のところを2人で学校をまわっているので充実はしている。結果の見せ方は難しいが、どこの学校にどのくらい派遣しているか目に見えるようにできると思う。そういったかたちで成果が見えればよいのではないかと考えている。

平田委員

1-②の事業で、不登校が前年同時期に比べ増えているということで原因が分からないということだが、これは学校ごとにばらつきはあると思う。成果が出ている学校もあれば出ている学校もあるということでのよろしいか。全体的に成果が出ているのか。

小井戸学校教育課長

全体的な数字としては上がり傾向で、どうしても地域性というものがある。地域差はかなりある。不登校がほとんどない学校もあり、いろいろあるのが現状である。

平田委員

問題は地域差だけか。増加する現象というのは地域差というものもあるかと思うが、学校の取組自体でいえば増加している学校の問題というのは何か、減少している学校の取組内容、姿勢なども知りたい。地域差も踏まえ、不登校の背景を抱えている問題は様々だと思う。一概にこれとは言えないが、学校によって減少している学校は何か取組があるのでないか。その辺は学校教育課では把握しているのか。

小井戸学校教育課長

はっきり原因が分かればそれを解決すればよいがはっきり分からないというのもひとつある。今年もそうであるが、小学校の不登校をそのまま中学校へ引きずってしまっている。不登校は早期対応が大事である。まず出さないこと、もし出てしまったら早く対応するということである。3日休んだら家庭の事情を聞くなどすぐ動き出すことを始めている。あとは先生方の取組にも違いがあると思う。先生と家庭との関係、連絡が取れる取れないということも含めてソーシャルワーカーが出てくる場面も当然ある。学校も担任だけの問題として抱えず、校長先生も含めて対応する組織がある。そういった早期対応、それからもうひとつ教育相談所がある。そこにも連絡をし、学校が行かれないようであれば教育相談所のほうから行ってもらうなど家庭訪問をしてもらう。もちろん、親の相談もお受けする。中間教室的なものも市内に4つある。いきなり学校に行くというのも困る、ワンクッション置きたいといったときにそういった組織もある。ただこれといって理由の決定的なものはいくつかある。昔と比べて絶対に学校へ行けというのも今はなく、行かないのも一つの選択肢であるという親も増えている。いろんな社会の変化もあり非常に困っているが、学校とも協力しながら早期対応していきたいと考えている。

平田委員

減少している学校の取組がまたポイントになるのではないかと思う。その辺を参考に深く追及していただき、増加傾向のある学校へ提言していただければ数値も変わってくるのではないか。

城下委員

1-①で中学校5校に専科教員を配置という具体的取組は予算をとまなう事業ということであるが、ここは学力向上にも不登校にも効果があると懇話会委員の意見にもある。上田市ならではの事業でお金もかかることだがすばらしいことでもある。今後の方針の最後のところでは市長部局とも連携し、高校、大学と小中学校との連携事業を構築ということを行っているが、支援プランにも載っているのをこれを入れ込みたくなるのも分かる。何回も言うようだが小中連携のところがぼやけないようにぜひ、お願いしたい。28年度の重点目標のほうの文字だけ拾ってみると小中連携のところがはっきりこちらに記載されていない。あらた

めてここがぼやけないようにぜひお願いしたい。

1-③で特別支援の学級でタブレットが有効利用されているということであるが、学校訪問をしているときに学校で拝見させていただいたが、学級のほうへ私たちも勉強させていただきたく参観させていただきたいと思う。前回、この資料がでたときに気づけばよかったが、実証実験という文言の実験という言葉はどうなのかと思う。ほかに適当な言葉がなければやむを得ないが教育現場ということに対しての実証実験という言葉はないと思う。

小井戸学校教育課長

試験導入という言葉にしたい。

寺島委員

今後の方針等というところでいくつか研修という言葉が出てきている。現場も忙しいなかで効果的な研修が実際行われるのか。研修という言葉だけで終わらせるのではなく、実際行く研修会とか研修した成果を検証してほしい。効果があったのか検証していかないと言葉だけになってしまう。

小井戸学校教育課長

来年度以降、成果も含めて記載したい。

○ 全委員 了承

○資料2-①により小野沢教育総務課長説明（要旨）

事業名、小中学校施設の耐震化事業の計画的な推進について、総合評価はBである。平成18年の耐震診断開始以降計画的に進め、当初目標として校舎、屋体については99.5%、非構造部材体育館等の屋根材等については97.1%の耐震化の目標であった。具体的な取組としては東、川西、本原、第二中、第三中、第四中学校のそれぞれの工事を行ってきた。結果として、全体としては校舎屋体については目標99.5に対して98.6%、非構造部材については88.6%ということで一部それぞれ工事の都合で今年度へ繰越というかたちになっており全体の目標達成できなかったが、28年度にはすべての耐震化が終了する予定である。委員からの意見として児童の安全ということはもちろんだが地域の広域避難場所ということで今後も計画的な改築を行う必要があるということである。これについては小学校の改築事業、耐震化事業については今後も計画的に進めていきたい。加えて、今後、老朽化施設が増えていくということで大規模改修、長寿命化も視野に入れながら効果的に今後実施していきたい。

○資料2-②により小野沢教育総務課長説明（要旨）

事業名、小中学校施設・設備の計画的な改修と日常的な営繕の充実について、総合評価はBである。学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を考慮しながら営繕工事等を計画的に実施した。小学校のシャワー施設の整備を4校行い、小中学校の営繕は各学校それぞれあるが実施した。目標の達成状況としては小学校のシャワー室記載の4校については28年3月末で完了した。その他学校施設の営繕については学校等の連絡調整しながら実施した。今後の課題にもあるが上田市の小中学校は昭和30年代に建築された校舎が7棟と老朽化が進んでいる。今後、こうしたものについても計画的に改修を進めていきたい。委員からの意見として可能な限り予算を確保し、有効に使われることを期待する。加えて、校内の敷地に樹木や

なかなか対応できない危険なものがある。予算の制約があるが児童の安全確保に向け営繕が進められることを求めるということである。これについては老朽施設が多々ある。必要な営繕、実施できる予算確保に努めながら危険木の剪定除去、施設の危険個所については学校とも調整し優先順位をつけながら進めていきたい。今後の方針として、老朽化した施設が多々あるが加えて昨年3月に公共施設マネジメント基本方針が出されるなかでインフラの整備については、児童生徒の少子化にともなう学校規模、小規模化への対応、適正配置といったものを考えながら緊急性のものを優先的に、計画的に実施していきたい。

○ 全委員 了承

○資料3-①により浅野文化振興課長説明（要旨）

事業名、「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の策定と文化芸術振興条例制定についての検討について、総合評価はBである。これについてはほぼ予定どおり進み完了している。現在、基本構想については印刷をしているところである。委員からの意見として第二次上田市総合計画との整合を図ってもらいたいということと、基本構想はつくったがそれに沿った事業を実践できなければ意味がないという意味で事業展開を進めてほしいということである。それについて文化芸術振興を図るため基本構想に基づき、また第二次上田市総合計画との整合性も図り総合的に施策を展開し、事業推進に努めていきたい。

○資料3-②により浅野文化振興課長説明（要旨）

事業名、市民や文化団体との連携・協働による文化事業の推進と人材育成の充実について、総合評価はBである。毎年、上田城跡能等、市民協働で様々な事業、また子ども向けの事業も行っているところである。委員からの意見として直接文化芸術に触れる機会というのは子どもたちにとっては非常に有効であるということから、今後も積極的に取組んでほしいということである。また、サントミュージゼで行っている施策とも調整し連携して行ってほしいという意見である。考え方として、芸術家派遣事業については子どもたちが文化芸術に触れ豊かな情操を育むための機会として今後も積極的に取組んでいく。また芸術家派遣事業とあわせ、興味を持った子どもたちが実際に体験できる場の提供や文化芸術活動に対する支援事業を推進する。サントミュージゼについては連携してやっていくということである。それによりサントミュージゼが実施している学校へのアウトリーチ活動と連携を図っていききたいということで、小中学校の在籍時にそれぞれ1回以上は学校において芸術鑑賞・体験ができるよう努める。

○資料3-③により浅野文化振興課長説明（要旨）

事業名、史跡等整備推進と文化財の保護と活用について、総合評価はAである。これについては27年度、大河ドラマの準備等があり新規事業が非常に増えた。これらについても積極的に取組んだということである。委員からの意見として「文化財 de 文化祭」など素晴らしい事業を実施しているので十分な周知・啓発を図り、市民の誇りとなるような事業を展開してもらいたい。また、発掘調査については少人数の職員体制のなかでも現場見学会を開催するなど積極的に取組まれたことを評価する。発掘調査において想定される成果がすぐ現れない場合もあるが、地道な調査を重ね正確な調査結果を市民に知ってもらうことが大切であるというご意見をいただいた。これらについて考え方であるが「文化財 de 文化祭」の事業については十分な周知を図り多くの市民の認知と理解を得られるよう努めていき、今後も発掘調査の結果については広く周知し、埋蔵文化財の理解を得られるように積極的に公開した

いということである。今後の方針等で「文化財 d e 文化祭」などの事業を展開し、文化財への理解と活用を促進する。

○資料 3-④により浅野文化振興課長説明（要旨）

事業名、郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出について、総合評価はAである。これについても大河ドラマの関係でこれを機会に様々な上田の歴史を知っていただきたいということで、とりわけ真田氏関連の歴史を市民と観光客に知っていただきたいということで新規事業を含め取組んできた。委員からの意見として真田氏に関する冊子の小中学生等への配布に加え「ふるさと上田人物伝」の作成、頒布が予定されているようだが、これらが学校において有効に活用され、この事業の効果が高まることを期待する。また、上田市の自然環境について身近に触れることができる施設があると良いと考えるが、博物館と上田創造館の共同事業としてフィールドワークなどを実施することも一つの方法であるとする。関連機関との連携を図りながら、郷土の文化・歴史等の学習機会が創出されることを期待するというご意見をいただいた。今後の方針等で新たに加えたものが、連携を図りながら各種展覧会や講座（自然環境分野含む）を開催していきたいということである。

○質疑

平田委員

3-②の事業で目標の達成状況のなかで鑑賞されている方々の人数が減少している。原因の分析はしているか。

浅野文化振興課長

学年の鑑賞か全校の鑑賞かによって例えば学校での鑑賞事業であれば大きく人数が変わってくる。また、誰が出演するかによってかなり人数の変動がある。ただ、アンケート結果を見る限りは評価としては非常に満足していただいている。

平田委員

とてもいい事業なのでこれからも多くの方に見ていただける対策は考えているのか。

浅野文化振興課長

そのように考えている。

○ 全委員 了承

○資料 4-①により小林生涯学習課長説明（要旨）

事業名、「上田市生涯学習基本構想」の策定について、総合評価はBである。第一次の基本構想が27年度に終了したことから第二次上田市総合計画との整合を図りながら基本構想を策定する。委員からの意見として第二次総合計画の個別計画として議論を重ねて策定した構想であり、これに基づいて関係課や地域と連携を図りながら具体的な施策が進められることを期待するとの意見をいただいた。意見に対する考え方は関係課や地域と連携を図り、市民が主役となった生涯学習となるよう第二次生涯学習基本構想に基づき施策を進めていきたい。今後の方針としては基本構想の計画に基づき、各課等における現状と課題の検証を行い、必要に応じて基本計画の見直しを行う。

○資料4-②により小林生涯学習課長説明（要旨）

事業名、社会教育施設の計画的な整備について、総合評価はAである。西部公民館の建替えについて用地を取得するとともに地域住民との協議を進めて基本実施設計を進めていく。また神川統合保育園等、神川地区の公民館建替えに関する関係部局との調整、検討を進める。達成状況として、西部公民館については旧上田警察署の跡地を建設用地として取得し実施設計についても作成した。神川地区公民館については関係部局との調整、検討を進め、結果、神川地区拠点施設整備事業として蒼久保地籍にある城南製作所工場跡地を取得・利用し、保育園及び公民館を合築した施設を、平成30年度の供用開始を目途に建設することとなった。図書館については他の公共施設整備との調整が必要であり関係部局との個別の調整、検討を進めた。委員からの意見として図書館整備についてインターネットの普及が進んでいるが、図書館を利用して調べるということが大変重要なことからどのような図書館整備をすべきか十分検討することを望む。また図書館が本の貸し借りだけでなくレファレンスなどの重要な役割であることから利用率だけで必要性や規模を判断するのではなく、市民が本を通して学ぶ喜びを味わえるように十分に議論を重ね、整備計画が進むことを期待するというご意見をいただいた。それに対する考え方として、図書館には本の貸し出しのほかに、必要な情報を収集、提供するなどの重要な役割がある。今後策定する第二次上田市図書館基本構想のなかで、上田市全体の図書館のあり方や運営方法を含めた方向性や施設整備について検討していく。今後の方針として、西部公民館については今年度建設を行い、来年度外構整備を行う。神川地区公民館については用地取得をするとともに地域住民とともに整備計画について協議を進め建物の設計を行う。図書館については図書館のあり方、役割分担を含めた基本構想を策定し、その中で施設の整備についても検討を進める。

○資料4-③により宮崎人権同和教育政策幹説明（要旨）

事業名、人権同和教育推進事業について、総合評価はBである。人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進し、より一層の人権意識の向上を図るということである。目標の達成状況としては講演会等の状況は記載のとおり数値目標を達成することができた。そのほかに地域とリーダーとなるべく人材の育成を目的とした学習も実施できた。委員からの意見として人権同和教育について研修会や講演会に大勢の市民が参加しており取組について評価していただいた。これらの事業については継続して取組む必要があることから今後も様々な機会を捉え、引き続き研修会等を実施し市民一人ひとりが日常生活のなかで人権に配慮をした態度や行動になるよう、人権教育と啓発を育てていきたいと考える。

○質疑

北沢委員

4-②の意見に対する考え方で、「図書館は本の貸し出しのほかに、必要な情報を収集、提供するなどの重要な役割がある」とあり、それはそのとおりである。次の文には「市民が本を通して学ぶ喜びを味わえるように」とある。最初の一行で本の貸し出しのほかにとあり、二行目で市民が、と限定している。大きくうたっておいて市民には本を通して学ぶ喜びを味わえるようにと限定しているのは文章としておかしい。さらに上田市の今後の図書館の構想はこれに限定するのではなくもっと幅広いことを考えているのではないか。だとしたらそう感じさせる内容を文言にしたほうがよい。

小林生涯学習課長

このところについてはもう一度検討し、考えさせていただきたい。

城下委員

図書館基本構想の策定を28年度の1年間で策定するというのでよいか。

小林生涯学習課長

予定では28年度、29年度で策定する。

○ 全委員 了承

○資料5-①により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

事業名、スポーツ施設整備の推進について、総合評価はBである。上田市スポーツ施設整備基本構想を策定した。担当者会議において基本構想検討案を作成し、スポーツ関係団体に対し説明したところである。上田市公共施設マネジメント基本方針の策定過程に沿って検討案と基本方針の整合を図る必要があることから関係部局との協議を行った。委員からの意見として市民がスポーツに触れる機会を増やす必要がある。スポーツ観戦をとおして子どもたちに夢を持ってもらえるような施設整備を考えてもらいたいということである。それに対し、スポーツ関係団体等に意見を聞きながら観るスポーツも含めた施設の整備を基本構想に盛り込みたいと考える。今後の方針としては上田市公共施設マネジメント基本方針と整合を図るために関係部局との連携を図りながら検討案を修正し、基本構想を策定していきたい。

○資料5-②により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

事業名、市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会実現のための施策について、総合評価はBである。PRということで「広報うえだ」「上田スポーツプレス」を活用した情報を提供した。また、全国大会の出場者に対する奨励金等の出場支援、夢の教室、新たに自然環境を活用した「太郎山登山競走」を民間の主催であったが協力して実施、スポーツ少年団や体育協会の主催によりスポーツ少年団指導者等に対して研修会を開催した。委員からの意見としてスポーツをすることで、努力する心や他人と協力する心が育てられることからその役割は大きい。上田市でスポーツに親しむ市民が増えるよう取り組まれることを期待する。それに対する考え方として引き続き推進する。夢の教室については非常に良い事業なのでこれからもぜひ、継続してほしいということである。それについてもより多くの学校での実施を目指したい。太郎山登山競走に関しては上田市民の参加者が増加するよう十分周知が図られることを期待するという点については、民間主体のイベントについても積極的な広報に努めたい。また健康チャレンジポイント制度について、関係機関と連携し参加者が増えるように取組が進むことを期待するという点に対しては、関係機関と連携しながら引き続き取り組んでまいりたいということである。

○資料5-③により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

事業名、総合型地域スポーツクラブの活動支援について、総合評価はBである。おもにPR関係と連携した事業展開ということである。達成状況のところにもあるようにスポーツ活動の関係事業については広報うえだ、または上田スポーツプレスにより周知を行ってきた。そして太郎山登山競走、体力測定会を開催してきた。委員からの意見として総合型地域スポーツクラブは、市民が身近にスポーツに親しめる場であり、この活動が続けられるように上田市からの支援が継続されることを望むということである。意見に対する考え方として、直

接資金の支援というのは難しいが、クラブ間の連携組織の設立を支援していきたいということで活動を推進していく。今後の方針についてもそのような組織の設立をしたうえでスポーツクラブの活動が充実できるように支援をしていきたい。

○質疑

城下委員

27年度の事業に対する意見はタイミング的に28年度には反映されず、その次の年に反映されるべきところは反映させることになると思う。3回も懇話会を通してご意見をいただいている、なおかつ、趣旨のところにもあるように教育に関する事業の改善に役立てるところを忘れずに、きちんと反映させるべきところは反映していられるようお願いしたい。

○ 全委員 了承

3 〈報告事項〉

(1) 教育総務課関係寄附の状況（教育総務課）

○ 全委員 了承

(2) 学校教育関係寄附の状況（学校教育課）

○ 全委員 了承

(3) 文化振興関係寄附の状況（文化振興課）

○ 全委員 了承

(4) 平成28年度夏休み上野が丘わいわい塾の実施について（上野が丘公民館）

○ 資料5により山口上野が丘公民館次長説明（要旨）

本事業は、重要な地域課題でもある「地域の子どもは地域で育てる」ことの具体的実践として、地域住民の交流や学習の拠点である公民館が取り組むものである。今年で5回目となり今年度は8月1日（月）から8月4日（木）の4日間開催する。今年度のテーマは「お宝発見」と「つながる」であり仲間作りが十分できるようにプログラムを見直した。また、中・高・大学生が自発的にボランティアとして参加する。

○ 全委員 了承

(5) 平成28年度友好都市ブルームフィールド市郡交流事業について（丸子地域教育事務所）

○ 資料6により石井丸子地域教育事務所長説明（要旨）

上田市が友好都市提携しているアメリカコロラド州のブルームフィールド市郡とは2001年以来、隔年で双方の学生の派遣を行っている。今年は訪問団受け入れの年であり、交流15周年目の年である。交流事業は上田国際交流事業を進める会に委託して実施しており、今年は8月4日から8月11日まで13名が訪問する。市長訪問を始め花火大会の見学、

文化体験、観光などを予定している。4日の18時30分からはホストファミリーの対面式をパレオ2階の会議室で行う。

○ 全委員 了承

(6) 第54回信州上田丸子夏期大学の開催について(丸子地域教育事務所)

○ 資料7により石井丸子地域教育事務所長説明(要旨)

上田市合併10周年記念事業として第54回信州上田丸子夏期大学が行われる。歴史や文化、自然、産業など様々な魅力を掘り起こし、郷土への愛着や誇りをさらに高めながら、だれもが住み続けたいと思う魅力ある上田市を作り上げていくために、各分野の専門家を招き、様々な視点からの見つけ直しや参加と協働によるまちづくりに向けてヒントを得る機会としている。メインテーマは歴史から未来を紡ぐであり、会場は丸子文化会館で参加費は無料である。申込は不要であり講演当日の受付のみである。

○ 全委員 了承

(7) 行事共催等申請状況について(学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課)

○ 全委員 了承

4 〈その他〉

- ・城南公民館長より公民館だより説明
- ・石井丸子地域教育事務所長より丸子地域教育事務所通信説明
- ・浅野文化振興課長より真田氏関連特別企画展説明

○ 全委員 了承

閉会